

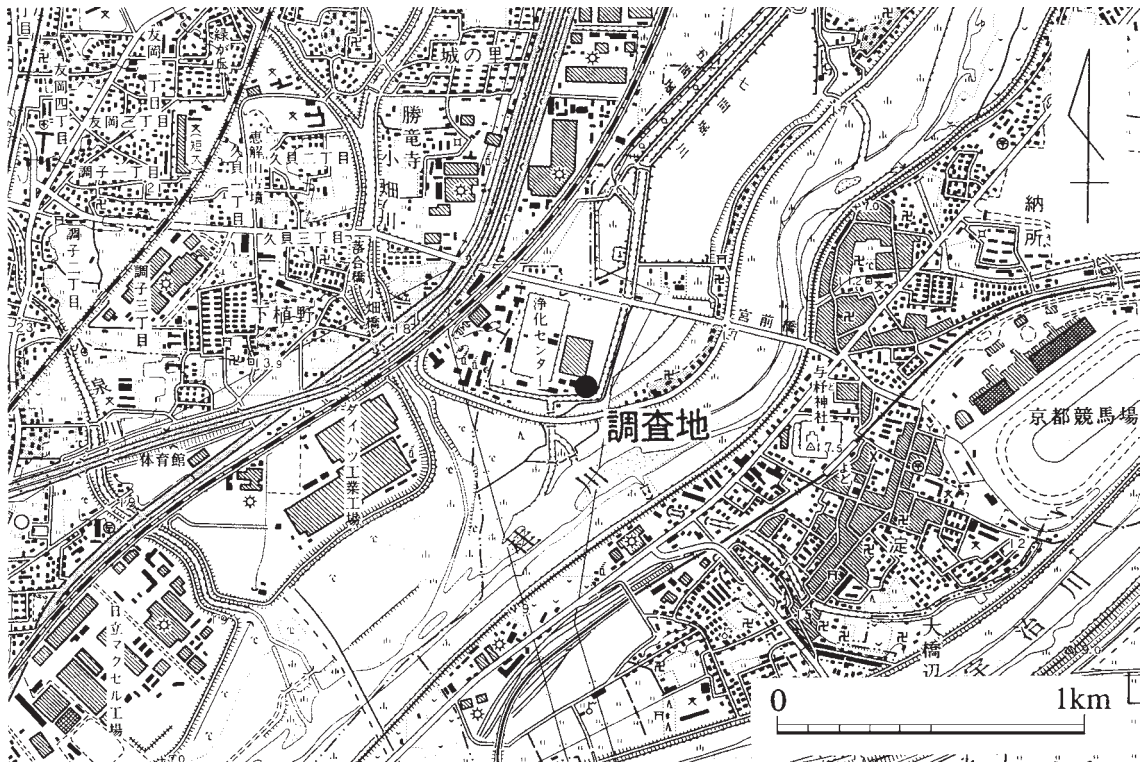
## 4.長岡京跡左京第527次 (7ANYSK-1地区)発掘調査報告

### 1. はじめに

長岡京跡左京第527次調査は、京都市伏見区淀大下津町において桂川右岸流域下水道洛西浄化センターの急速ろ過池建設工事に先立ち実施した事前調査である(第1図)。

調査地は、長岡京条坊復元案に従えば、九条大路と東一坊大路の交差点付近(旧条坊では左京九条一坊十三町・十四町)にあたり、北東側に左京九条二坊四町が展開する。また、同浄化センター中央部には、中世末期の下津氏の居城である下津城跡が推定されている。地理的には東側に接して東北方から蛇行して南流する桂川に、北西方から南下する小畑川が流れ込み、桂川河川内に扇状地形を形成している。合流地点を中心に小畑川と桂川の北岸には早くから堤防が構築され、その中を羽束師川(七間堀川)が縦走する。すなわち堤防内では湿地が広く発達した様子で、江戸年間に描写された絵図には水田・畑地が表現されている。桂川対岸の淀地区には豊臣秀吉により淀城が築城され、今日、元和9年に構築された淀城の石垣と堀が往時の姿を伝えている。

発掘調査は、平成20年7月22日から同年8月25日までの約1か月間で、調査面積は500㎡である。



第1図 調査地位置図(国土地理院 1/25,000 淀)

現地調査は、当調査研究センター調査第2課第1係長小池寛、同第1係主任調査員松井忠春が担当した。調査にあたっては、京都市文化市民局文化財保護課・(財)京都市埋蔵文化財研究所から教示を賜った。

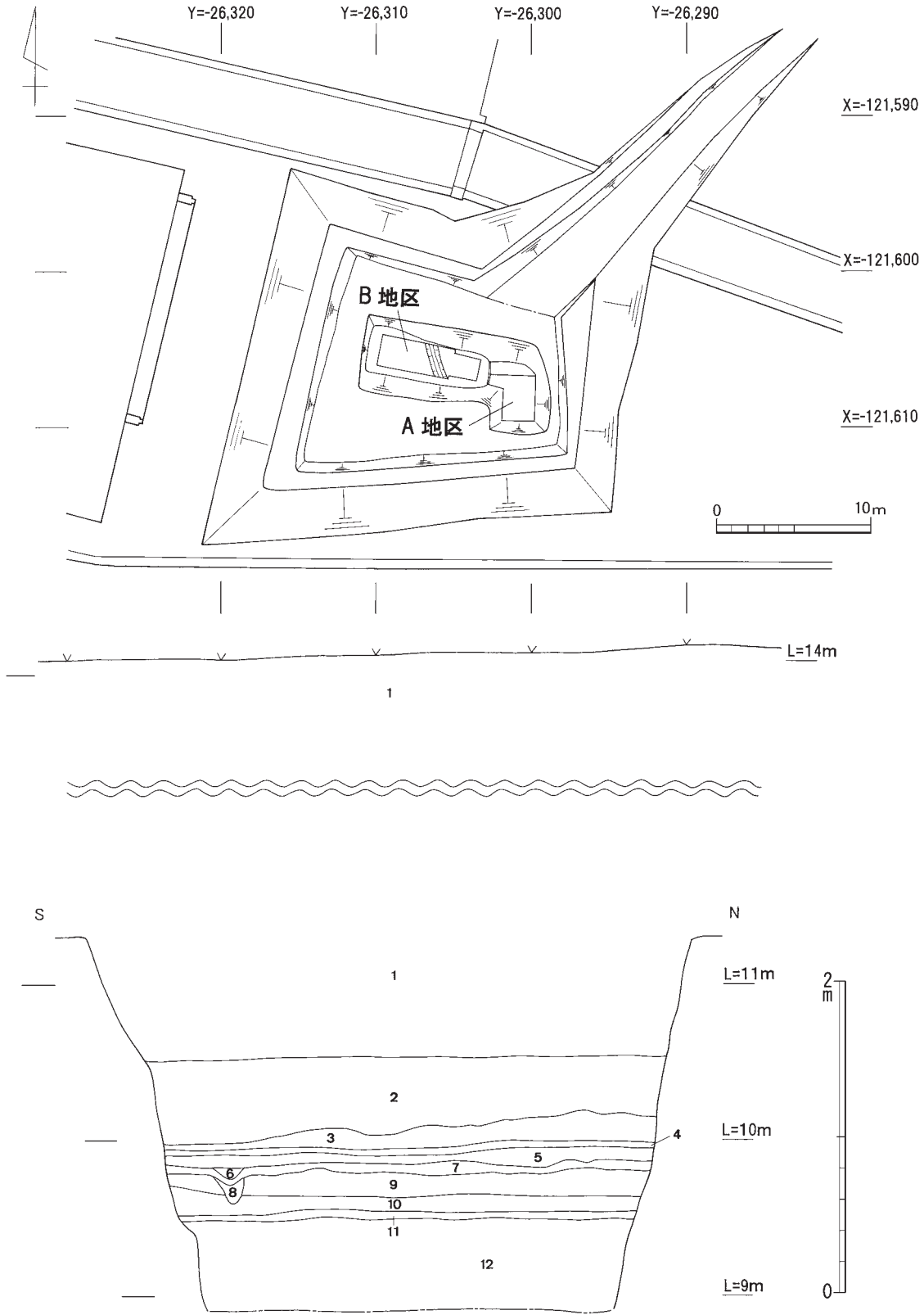
なお、発掘調査に係る経費は、全額、京都府流域下水道事務所が負担した。

## 2. 調査の内容

発掘調査は、まず、現浄化センター造成時の盛土を、草木を伐採した後、建築工事に支障のないように配慮しつつ、重機掘削を行った。表土下約2mで、約1m幅の平坦地を設け、さらに約1m掘り下げた。当初、この深度で湧水が懸念されていたが、比較的少量で止まった。この位置で、一旦平坦地を設けて、東北側に工事用進入路に重複するように発掘調査用の斜路を掘削した。この深さまでは現代盛土で、さらに下位に続いていた。発掘調査での掘削事故等の危険を避けるために、平地中央部に、東西9m×南北5mのB地区と、東西4m×南北6mのA地区を連結させてL字状に2調査地を設定した。A地区を浅く、B地区はA地区より深く、段差をもって、堆積状況や遺構・遺物の有無を確認すべく、さらに約1.3m下位まで重機で掘り下げを実施した。その結果、標高約10mで旧耕作土を確認した。その上部はバラスを含めた旧整地面が堅くしまつて、安定面を形成していた。これより以後は人力により徐々に掘削を繰り返しながら、両地区を約1m下位まで丁寧に観察しながら掘り進めた。A地区では足跡と溝1条(図版第3-2・3)を、B地区では溝1条(図版第4-2)を検出したが、出土遺物は皆無であった。B地区ではさらに南壁に沿って東西方向に断ち割りを約0.5mの深さで行ったが、耕作土あるいは沈澱堆積土と推察できる粘質土が下方に引き続いて堆積している状況であった。この作業で生じた排土はダンプカーとベルトコンベアーを使用して、場外へ搬出した(第2図上図参照)。

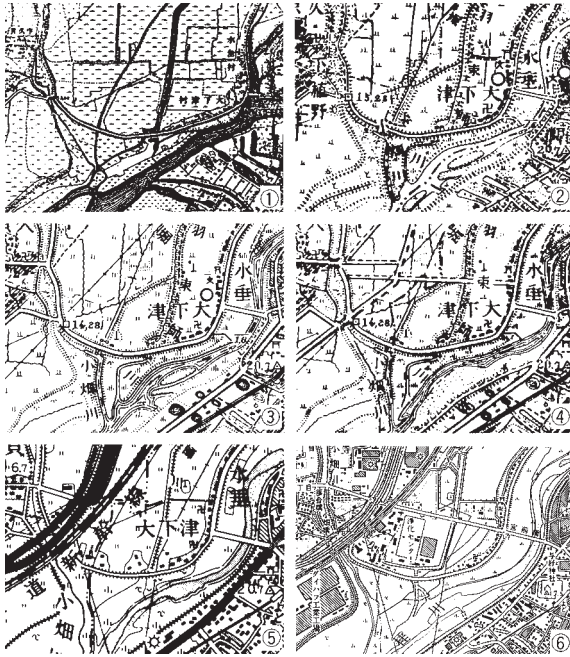
以上、発掘作業工程を簡略に記述した。次に表土下約4mの旧耕作土以下の堆積土及び検出した遺構を中心に、B地区西壁の層序を取り上げて順次上層から説明を加える(第2図下図参照)。最上層は、礫・砂利・粘土塊と共に廃材を含む現代盛土で、昭和47年から開始された現洛西浄化センター建設に伴う造成盛土で、その高さは約3.5mに達する。この現代盛土直下は上面を強く叩きしめられたバラスで安定した整地層を成す。上層同様に、礫や廃材などを含むバラス層が上面を被う点が相異なる。黒灰色粘質土は造成前の旧耕作土で、一定の厚さをもって下位に緑黄色粘質土を薄く敷いていた。床土である。水田や畑地に利用されていたことが窺える。灰黄色土は若干褐色を帯びた土色で、0.4~0.5mの安定した厚さである。長期間使用された耕作土と考えられる。直下の緑黄色砂質土は粘着力が強く、床土に相応しい。灰黄色土と共にやはり水田・畑地を形成していたのであろう。これより約0.5m間の堆積土は、灰褐色砂混り粘質土・淡灰色粘質土と緑黄色粘質土、灰色粘質土と灰白色砂は、沈澱と洪水での堆積が相互に生じた結果であろう。最下層の灰褐色粘質土は緻密な砂粒を含む粘着力の強い堆積層である。

上記の堆積層の内、耕作土である灰黄色土内で北西→南東に斜走する一条の溝をA地区で確認した。黄褐色砂質土が埋土で、幅約0.3m、深さ約0.1mで、北西に向かって底面が下降する。そ



- |               |              |              |
|---------------|--------------|--------------|
| 1 現代盛土        | 5 灰黄色土(耕作土)  | 9 灰褐色砂混り粘質土  |
| 2 整地層         | 6 灰褐色土       | 10 灰色粘質土     |
| 3 黒灰色粘質土(耕作土) | 7 緑黄色砂質土(床土) | 11 灰白色砂(洪水層) |
| 4 緑黄色粘質土(床土)  | 8 青灰色土       | 12 灰褐色粘質土    |

第2図 調査地平面図・B地区西壁断面図



第3図 土地利用変遷図

- ①明治20年代 ②明治42年 ③昭和7年  
④昭和24年 ⑤昭和44年 ⑥昭和54年

の直下から有蹄類の足跡を検出した。足跡の形状から牛の可能性が高い(図版第3-2・3)。

B地区では、最下部から幅約0.8mの一条の溝を確認した。深さは約0.3mを測る。埋土は1cm程の厚さの白色砂を間層とし青灰色粘質土が充填されていた。底面は北西に下降する。

上記の遺構内からは何らの遺物も出土していないため、年代を推定することは困難ではあるが、大概、A地区のそれらは近世に、B地区のそれは中世に想定して大過なからう。

第3図は明治20年代～昭和54年までのおよそ90年間の調査地付近の土地利用を検討するために提示した地形図である。①は明治年間には水田であったことを明示している。④の昭和24年作成図にあっても変化していないが、⑤の昭和44年に至っては、開墾・造成され、工場が建設されている。⑥の昭和54年では現在の浄化センターへと変貌する。④～⑥は水田→工場→浄化センターへの大変画期であったことを顕著に表現している。この変化は、堆積土として、バラスで整地された平坦面が工場建設時に対応し、上層盛土は浄化センター建設時のものであって、耕作土である黒灰色粘質土は①～④の水田を指図している。明治以前の江戸年間、旧巨椋池を中心にした三河川合流付近では豊臣秀吉による太閤堤や淀城に見るように、三河川の水利及び堤防の構築などによる強固な防禦施設が大規模に実施されたことで、自ずと本地域にも影響が及び、調査地南側に大きく緩やかな曲線を描く堤防とそこに営まれた大下津・水垂の集落が発達し、背後に水田地帯が展開することは既に記したところである。さらに、標高9m付近は、沈澱層である青灰色粘質土である。これは三河川合流点の西辺部に存するこの地が、三河川の水量の対応して淀みと化して生じたもので、この様相は旧巨椋池周辺に分布する諸遺跡でも確認できる。従って無遺物や小規模な溝一条のみからは速断はできないが、少なくとも中世段階では集落などの遺構はなく、水田等が広がる世界であったと推定する。

(松井忠春)

# 圖 版



(1) 調査前全景 (東から)



(2) 調査前全景 (南西から)



(3) 調査地全景 (南から)



(1) 調査地全景 (東から)



(2) 調査地全景 (西から)



(3) A 地区埋土堆積状況 (北から)



(1) A 地区全景 (東から)



(2) A 地区溝検出状況 (北から)



(3) A 地区遺構検出状況 (北から)





(1) B 地区全景 (東から)



(2) B 地区溝検出状況 (南から)



(3) B 地区埋土堆積状況 (東から)

所収遺跡名	要 約
俵野廃寺第2・3次	飛鳥時代創建の古代寺院跡で、礫敷き遺構・瓦堆積のほか、寺域東を限るとみられる杭や板で護岸された溝などを確認した。出土遺物から、寺院は平安時代中期に廃絶したと推定される。
戸田遺跡	由良川左岸に近接する12世紀後半に成立した集落遺跡。養和元（1181）年頃までには立荘されていた松尾社領雀部庄関係文書に記された「富田」「とた」の一部にあたと推定される。
新庄遺跡第5次	亀岡盆地北端に位置する縄文～鎌倉時代の複合集落遺跡。古墳～平安時代の竪穴式住居跡・掘立柱建物跡のほか、周囲を堀で囲まれた大社造りに復元できる鎌倉時代の掘立柱建物跡が検出された。
長岡京跡左京第527次	桂川と小畑川の合流点付近にあたり、中世～近世と推定される溝のほかには、顕著な遺構は検出されなかった。

## 京都府遺跡調査報告集 第132冊

平成21年3月31日

発行 (財)京都府埋蔵文化財調査研究  
センター

〒617-0002 向日市寺戸町南垣内40番の3  
Tel (075)933-3877(代) Fax (075)922-1189  
<http://www.kyotofu-maibun.or.jp>

印刷 三星商事印刷株式会社

〒604-0093 京都市中京区新町通竹屋町下ル  
Tel (075)256-0961(代) Fax (075)231-7141